

# こちら 子どもスポーツ診療室



子どもが首に寝違えたときのような痛みを訴え、顔が傾いたまま動かせなくなったときは「環軸椎回旋性亜脱臼」の疑いがある。骨などが未発達な小児期にみられる症状で、喉の炎症や運動時の転倒などが原因で起きることがある。悪化すると大掛かりな手術が必要になるケースもあり、早期治療が大切だ。徳島大学大学院脊椎関節機能再建外科の長町頭弘特任准教授に症状や治療法などを聞いた。



長町頭弘特任准教授

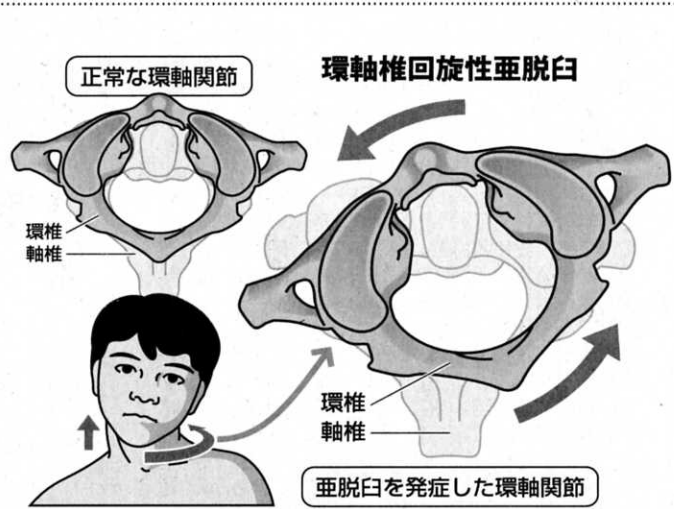
人の頭を支える頸椎は七つの骨でできており、最上部の第1頸椎はリング状の環椎、第2頸椎は突起がある軸椎と呼ばれる。環椎と軸椎は環軸関節でつながっている。環椎が車輪とすれば、軸椎の突起は車軸に相当し、人が首を左右に振る動作ができるのは環軸関節があるおかげだ。

環軸椎回旋性亜脱臼は、環椎が環軸関節から外れかけた状態。上気道炎やへんとう炎、中耳炎など喉周辺の炎症を伴う疾患で引き起こされるケースが多い。原因は、喉周りの炎症で靭帯などの環軸関節を支える結合組織が緩むためと考えられる。関節の周囲は靭帯などでしっかり支えられているものの、骨や靭帯が未発達の子どもの亜脱臼になりやすい。

走っているときに転倒したり、壁で頭を打ったりして起きることもある。スポーツ中の衝撃が直接の原因ではなく、疾患と同様に環軸関節の周囲に炎症が起きるためだ。発症しやすい特定のスポーツ種目はなく、軽い衝撃でも起こりうるため、本人もすぐには気づかないことがある。喉の炎症が鎮まれば、数日間で自然に治るものの、なかなか顔の傾きが

## 放っておくと骨にゆがみ

16



治らずに病院を受診する患者も多い。治療は、まず安静にして痛み止めの消炎鎮痛薬を内服してもらおう。数日で治れば、再発はないと考えて良い。しかし、数日経過しても治らないときは入院が必要となり、間欠的な頸椎けん引を行う。頸椎けん引は、患者の頭部を引っ張ることで環軸関節周辺の緊張を緩和し、炎症が治まるのを促す治療法。あおむけに寝た患者の頭部を、1〜2kgの重りを使って水平方向に引っ張る。

元の正しい位置で維持し、それでも再脱臼が生じる場合は、頸椎の真後ろを切開し、直接整復してから環椎と軸椎にネジを打って固定する手術を行う。手術せずに放置すると、頸椎の動きが制限を受けて首の動きに支障を来し、顔にゆがみが生じるなど大きな障害を残す原因となる。

何よりも大切なのは早期発見と早期治療。長町特任准教授は「放っておくと、発育中の子どもの骨にゆがみが生じる恐れがある。大掛かりな手術が必要な上、最悪の場合には元に戻せなくなる。痛みを我慢せず、すぐに近くの整形外科医に相談してほしい」と呼び掛けている。

# 環軸椎回旋性亜脱臼

着。6〜8週間、環椎を

(山口和也)